

Syllabus



AICHI Medical College
for Physical and Occupational Therapy

2020年度 シラバス

～ 目 次 ～

専攻科リハビリテーション科学専攻

【教養科目系】

文学	1
日本文化学	2
経営学	3
教育学概論	4
生涯学習概論	5
法学入門	6
文章力を磨く	7
植物学概論	8
哺乳類の進化概論	9

【基礎科目系】

臨床体表解剖学	10
病態運動・生理学	11
臨床発達障害学	12

【運動機能障害系】

運動器系障害リハビリテーション論	13
内部疾患系障害リハビリテーション論	14
スポーツ障害リハビリテーション論	15

【生活機能障害系】

中枢神経系障害リハビリテーション論	16
地域・老年期リハビリテーション論	17
精神機能系障害リハビリテーション論	18
生活環境リハビリテーション論	19

【リハビリテーション管理】

応用臨床心理学	20
医療福祉行政学	21
医療情報学	22

【リハビリテーション科学研究】

研究法演習	23
リハビリテーション科学研究Ⅰ	24
リハビリテーション科学研究Ⅱ	25

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数			
文学		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間			
担当教員名									
杉原 春仁									
授業概要									
国民文学とも言える芭蕉「おくのほそ道」を通読することによって、俳諧の風雅、わびなどの理念を明らかにし、人生の本質を探る。									
学習到達目標									
一句ごとに味読し、紀行文の鑑賞を通して作者が何を見、どんなことを語ろうとしたかを正確に受け止め、芭蕉の人生観、世界観を理解する。									
授業形態									
講義		講義中心で進行し、随時質問を受けながら行う。							
授 業 計 画									
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容						
1	杉原	旅立ち	千住での名残 弟子・知人が多数見送る千住において、旅の第一句を詠む						
2	杉原	日光	東照宮 初夏の日光の大自然の中で「あらたふと」の句を得る						
3	杉原	殺生石・遊行柳	敬愛する西行法師の故事が残る柳の下を去り難い芭蕉						
4	杉原	松島	雄島・松島の月 旅の当初から気にかかった「月」を賞でる						
5	杉原	出羽三山	羽黒山・月山・湯殿山 修験道の三山を拝する						
6	杉原	象潟	松島に対する象潟の美						
7	杉原	加賀～大垣	大國加賀から終焉の地、大垣へ						
8	杉原	まとめ	各自、文章をまとめる						
成績評価の方法・基準（100％）									
筆記試験	レポート								
50	50								
筆記試験（50％）、講義を通して注目した一句を取り上げ、鑑賞文をまとめる（50％）									
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間									
作者の芭蕉について、予備学習をしておく。（1～2時間）									
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法									
それぞれの句について意見・感想を述べてもらい、それを基盤に詩語を検討した上で作品を鑑賞する。 鑑賞後は、句について説明を行う。									
教科書									
プリントを用意する。									
参考図書									
講義の中で適宜示します。									
備考：履修者への要望									
できるだけ多くメモを取ってもらい試験に役立ててほしいと思います。									

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日本文化学	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
【書道】長谷川 恵也 ・ 【華道】植田 れい子					
授業概要					
【書道】 日本・中国の文字の形の変遷を毛筆を使って体験しながら書道文化を学習する。 【華道】 生け花の道具や花材の扱い方、基本の花型を理解しながら花をいけることを学ぶ。先人達から伝統的に受け継がれた花や現代のアレンジ花も生ける。					
学習到達目標					
【書道】 漢字の成立、書体、書風の違い、毛筆の特性を理解し、作品制作において表現方法を工夫できるようにする。 【華道】 基本の花型を理解し、花材の扱い方、花材の名前を覚え、季節の花をいけることができるようにし、生活に潤いを持たせることに役立てる。					
授業形態					
演習	【書道】 書道用具（大学側で用意する）を使い、毛筆書道の実習中心の講義 【華道】 花器など（大学側で用意する）を使い、花をいける実習中心の講義				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	長谷川	楷書を書く	楷書の様々な古典を書く		
2	長谷川	行書を書く	日本と中国の行書の古典を書く		
3	長谷川	仮名を書く	仮名の成立と字源、いろはを書く		
4	長谷川	現代文を書く	書道史の講義と現代文を書く		
5	植田	春の花、盛花、基本花型	基本花型の盛花を、資料を参考に理解し、実際にいける。		
6	植田	初夏の花、投入花、基本花型	基本花型の投入花を実際にいける。春夏秋冬の代表的な花の名前を覚える。		
7	植田	クリスマスの花、盛花	クリスマスの花をアレンジ花のポイントの説明を聞きいける。暮らしの行事（五節句等）についても学ぶ。		
8	植田	正月の花、盛花	お正月の花を盛花で実際にいける学習をする。		
成績評価の方法・基準（100％）					
（書道）筆記試験	（書道）レポート	（書道）参加貢献度	（華道）筆記試験	（華道）参加貢献度	
25	20	5	15	35	
【書道】提出作品（50％）、レポート（40％）、授業への参加貢献度（10％） 【華道】筆記試験（30％）、授業への参加貢献度（70％）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【書道】日本と中国の歴史（古代から平安まで）時代の流れを把握しておくこと。（30分～1時間） 【華道】日本のくらしの行事に理解を深めて、授業に出席すること。（約30分）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
【書道】課題は、講義の中で返却します。 【華道】テスト後、返却します。					
教科書					
【書道】「字と書の歴史」江守賢治 著（日本習字普及協会） 【華道】資料を配布します					
参考図書					
【書道】「マンガ書の歴史」（講談社）、「すぐわかる日本の書」可成屋 編（東京美術） 【華道】「いけばなの要点 石田流」石田秀翠（著）社団法人石田流華道会発行					
備考：履修者への要望					
【書道】文字の歴史と芸術書道を楽しんで下さい。日常生活の中の毛筆文字に注意して下さい。 【華道】花は心のビタミンです。生け花は、日本の文化です。季節の花を飾って生活にうるおいを持たせましょう。					

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
経営学		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
坂本 桂二						
授業概要						
これまでの医療機関経営は、様々な点で一般企業とは異なる経営が行われてきた。例えば、診療報酬自体を例にとってみても、その価格は国により定められており、一般企業のように市場原理による価格決定メカニズムが働いていません。しかし、今後は医療機関も、自費診療の拡大など、診療報酬体系にも変革が進展すると考えられます。また実際に医療機関間の競争も激化してきており、従来の方式の経営で、患者の訪れを待つという姿勢では経営が立ち行かなくなっています。こうした状況の下で、医療機関が生き残るためには、医療機関を一つの経営体として捉えて、民間の企業的な経営センスを導入することが極めて大事です。本講義では、経営学の全体像、基礎的な経営戦略論、組織論、マーケティング理論を医療機関との関係性の中で学んでいきます。						
学習到達目標						
基礎的な経営戦略理論、マーケティング理論、組織理論を医療経営等実践面と関連づけて説明ができ、また、その理論を使いながら医療機関の経営の具体的な提案ができるようになることを目標にします。						
講義	パワーポイントを中心に講義を進めます。また、必要に応じて板書も併用します。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	坂本	経営学の全体像	オリエンテーションと経営学の体系、歴史、広がりについて学ぶ			
2	坂本	企業経営の全体像	企業を取り巻く環境、株式会社とカネ、会社機関との関係、金融市場、労働市場との関わりを学ぶ			
3	坂本	経営戦略	経営のあり方、経営戦略にかかる基本的理論と実践知識について学ぶ			
4	坂本	競争戦略のマネジメント	違い（差別化）を作り上げていくプロセス、違いを作る基本戦略、多角化戦略のマネジメントについて学ぶ			
5	坂本	マーケティングの本質	マーケティングの考え方と市場のつかみ方について学ぶ			
6	坂本	サービス・マーケティング	サービスの特性、サービス・マーケティングの考え方について学ぶ			
7	坂本	マクロ組織のマネジメント	組織の概念と見方、組織構造のバリエーションと選択について学ぶ			
8	坂本	ミクロ組織のマネジメント	組織のインセンティブ設計、リーダーシップ・スタイルについて学ぶ			
成績評価の方法・基準（100％）						
筆記試験	小テスト	口頭試験				
60	30	10				
筆記試験60％（全講義終了後実施）、小テスト30％（各講義終了後に習熟度テストを実施し、良い3点、普通2点、悪い1点で評価）、口頭試験10％（予習内容、前回講義に関する口頭試験を講義開始時に実施し、良い3点、普通2点、悪い1点で評価）						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
講義テーマについて、参考図書、新聞、雑誌や経済的な特集番組などから、講義内容に関連する情報を事前に収集し、学習しておくこと。予習時間1～2時間程度。また、毎回、講義資料を配布するので、講義後確りと復習し、理解を深めること。学修結果を確認するため、講義の初めに前回講義に関する口頭試験を実施。復習時間1時間程度。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
小テストの解答は講義の中で解説します。試験の解説は、求めに応じてメール等でフィードバックします。						
教科書						
教科書は特に指定しませんが、講義は講義用プリントを毎回配布して進めます。						
参考図書						
「1からの経営学」 加護野忠男・吉村典久編著 碩学社 「ゼミナール経営学入門」 伊丹敬之、加護野忠男著 日本経済新聞出版社 「マーケティング戦略」 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著 有斐閣アルマ 「医療経営の基本と実務」 KPMGヘルスケアジャパン（株）編著（上巻・戦略編）						
備考：履修者への要望						
「経営学」を学ぶことは、社会全体そして人の生活に多大な影響を及ぼす企業、会社に関心を払ってもらうことにあります。また、「経営学」が生み出してきた知識は、病院、学校、行政等の経営のあり方、運営のあり方等に広く応用ができ、日ごろの仕事、サークル活動、組織運営等に活用されることを期待します。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
教育学概論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名						
石黒 茂						
授業概要						
ヒトは学ぶことによって人になる。人になるためには教育の営みが重要である。教育については誰もがそれなりの考えや意見をもっている。それは誰もが教育を受けてきたことによる。しかし、その考えや意見は自らの経験だけに基づくものであることが多い。本講義で学ぶことにより、教育について幅広い知識と視点を持ち、社会の中で自ら主体的に学び続けることの重要性を知る。						
学習到達目標						
①教育や学ぶことについての基礎的・基本的な知識や考え方について説明できる。 ②積極的に学習に参加し、幅広い視点と考え方で主体的に考えることができる。 ③現代の教育のあり方について、正しい知識と認識をもって判断できる。						
授業形態						
講義		配付資料とスライドを用いた講義を対話形式で行う。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	石黒	教育の本質と目的	学ぶことの意味、教育の概念と目的について学修する。			
2	石黒	教育の誕生	教育の誕生、教育の生物学的意味について学修する。			
3	石黒	教育の可能性	学習と脳・神経の関わりについて学修する。			
4	石黒	西洋の教育思想	ルソー、ペスタロッチ、カント、デューイの教育思想			
5	石黒	日本の教育思想	江戸時代の教育思想、明治期以降の教育思想			
6	石黒	教育方法と学習指導	教授理論の歴史、学習指導と教授理論			
7	石黒	公教育制度と現代の教育	教育制度の原理と構造、近代教育制度の確立			
8	石黒	教育法規と学習指導要領	教育基本法、学校教育法、学習指導要領			
9	石黒	日本の子どもの現状	現代の子どもをめぐる諸問題とその現状			
10	石黒	現代の教育改革の動向	生涯学習社会における教育とは、教育課程改善の方向			
11	石黒	生徒指導	生徒指導の意義、原理・内容・方法			
12	石黒	キャリア教育	進路指導とキャリア教育、キャリア教育の背景と意義			
13	石黒	特別支援教育	インクルーシブ教育、ノーマライゼーション			
14	石黒	諸外国の教育、教育の今日的課題Ⅰ	フィンランド、アメリカ等の教育事情、新しい教育課題			
15	石黒	教育の今日的課題Ⅱ、まとめ	今後の教育はどうあるべきか自分が理想とする教育のあり方について考えをまとめてくる。			
成績評価の方法・基準（100％）						
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度				
50	30	20				
授業16回目：試験となります。 講義への参加・貢献（学習意欲・講義への参加・発表態度）（20％）、ポートフォリオ（30％）、筆記試験（50％）で評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（約30分～1時間） （復習）1日の授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。（約30分～1時間）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。対話方式で授業を進めるので、疑問点があれば、その都度フィードバックする。						
教科書						
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。						
参考図書						
参考資料を講義の中で配布する。参考文献は講義の中で紹介する。						
備考：履修者への要望						
急速に変化する社会の中で教育はどうあるべきか、自らどう学び続けるべきか。現在の教育、これからの教育のあり方について、いっしょに考えていきたいと思います。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生涯学習概論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名						
石黒 茂						
授業概要						
人はなぜ生涯を通じて学び続けなければならないか。「学ぶ」とはどういうことか。キャリアを積むことの大切さはどこにあるのか。自ら学ぶ環境を整え るとともに、広く社会には学ぶための環境があることを理解し、これらを通して生涯学習の在り方を身につけるものとする。						
学習到達目標						
①生涯学習の意義や仕組みが理解できる。 ②生涯学習の課題や問題点を知り、積極的に関わる姿勢を身につける。 ③自ら学び続ける態度を身につける。						
授業形態						
講義		配付資料とスライドを用いた講義を対話形式で行う。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	石黒	生涯学習と教育基本法の理念	生涯、なぜ学ぶのか。生涯学習とその基本にある教育基本法の理念について学修する。			
2	石黒	我が国に生涯学習が生まれるまで (戦後)	戦後、我が国の生涯学習の歴史について学修する。			
3	石黒	戦前の生涯学習の歴史（戦前）	江戸、明治から戦前までの日本人の学びについて学修する。			
4	石黒	我が国の「学習人口」の実態と課題	我が国の学習制度、仕組みについて学修する。			
5	石黒	生涯の各時期における発達課題	人生のライフステージにおける課題、人生の各時期に必要な学びについて学修する。			
6	石黒	家庭教育をめぐる諸課題	家庭の役割と変遷から見た家庭教育について学修し、望ましい家庭教育の在り方について考える。			
7	石黒	青少年の実態と教育の在り方 (1)	青少年の置かれている状況、実態を諸統計・意識調査などから学修する。			
8	石黒	青少年の実態と教育の在り方 (2)	青少年教育の実態について学修し、将来の青少年の在り方について考える。			
9	石黒	生涯学習と学校教育について (1)	自治体が実施する生涯学習と学校教育の関係について学修する。			
10	石黒	生涯学習と学校教育について (2)	生涯学習と学校教育の現状について学修する。			
11	石黒	成人期、高齢期における生涯学習	成人期、高齢期における生涯学習について学修し、生涯学習を多角的に把握する。			
12	石黒	生涯学習の方法と形態	特色のある学習方法、様々な学習方法の存在について学修する。			
13	石黒	生涯学習における社会教育施設	公民館、図書館、博物館など身近にある生涯学習施設について学修する。			
14	石黒	民間教育産業、企業における生涯 学習	カルチャーセンター、民間企業の行う生涯学習について学修する。			
15	石黒	学習を終え、全体のまとめ	学習全体から学んだことを振り返り、今後、社会や職場でどのように心がけたらよいのか、学習の成果 をどのように活かして行くかを考える。			
成績評価の方法・基準（100％）						
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度				
50	30	20				
授業16回目：試験となります。 講義への参加・貢献（学習意欲・講義への参加・発表態度）（20％）、ポートフォリオ（30％）、筆記試験（50％）で評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（約30分～1時間） （復習）1日の授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。（約30分～1時間）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。対話方 式で授業を進めるので、疑問点があれば、その都度フィードバックする。						
教科書						
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。						
参考図書						
参考資料を講義の中で配布する。参考文献は講義の中で紹介する。						
備考：履修者への要望						
急速に変化する社会の中で、自ら主体的にどう学び続けるべきか。生涯学習社会での学びはどうあるべきか。これからの生涯学習のあるべき姿について、 いっしょに考えていきたいと思います。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
法学入門		リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名						
木村 良夫 ・ 平田 健人 ・ 笹尾 菜穂子 ・ 光飛田 透子						
授業概要						
現代社会において生起している様々な法的諸問題を取り上げ、それらの法的諸問題を考えることを通して、現代社会を生きる者としての問題解決能力の習得を目指す。						
学習到達目標						
法律問題を身近に考えることができるリーガルマインドを習得する。						
授業形態						
講義	基本事項を講義の後、ディスカッションを行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	木村	私たちと法	教科書 第1章を解説し、現代社会における法の役割を考える。			
2	木村	裁判と法	教科書 第2章を解説し、現在の裁判が抱えている問題を指摘する。			
3	平田	被害者の救済と法	教科書 第7章を解説し、不法行為に関する講義を行う。			
4	平田	医療と法→医療過誤	教科書 第11章-1を解説し、医療過誤に関連する法的知識の講義を行う。			
5	平田	生命理論の問題	教科書 第11章-2を解説し、生命倫理に関連する法的知識の講義を行う。			
6	平田	情報と法→マスコミと法	教科書 第9章―1を解説し、報道の自由に関する憲法の考え方と判例について、講義を行う。			
7	平田	情報と法	教科書第9章―2を解説し、情報公開及び個人情報保護に関連する憲法の考え方と判例について、講義を行う。			
8	平田	環境の法	教科書第8章を解説し、環境問題に関連する法的知識の講義を行う。			
9	笹尾	労働と生活の保障	今後、働くみなさんは、労働者としてどのような権利を有しているのか、権利を保障する法の概要について講義します。また、格差社会のなかの生活の保障についても触れます。			
10	笹尾	教育の法	大学で行われている様々な研究や講義は、いかなる保障を受けているのか、「学問の自由」について講義します。また、大学以前の教育と教育基本法の問題についても触れます。			
11	笹尾	犯罪と刑罰	今後、みなさんが裁判員として刑事司法に参加して行くにあたって基本となる概念（罪刑法定主義）について講義します。			
12	笹尾	政治参加と法	国と地方公共団体（県や市町村）の政治機構や、私たちが国民・住民としていかなる権利を有するのかについて講義します。			
13	光飛田	家庭生活と法	教科書第3章に沿って、出生から死亡するまで、私たちがどのように法と関わっているのか、また、どう関わっていくべきかを考える。家庭生活を巡る法が、時代によって、どう変化してきたのかについて考える。			
14	光飛田	消費者と法	契約自由の原則とは何か。契約自由の原則があるのに、なぜ、消費者を保護する法規制が必要なのか、その背景について、教科書第6章に沿って、考える。			
15	木村	まとめ	これまでの講義を通して受講生が考えたことを発表してもらい、それについてディスカッションし、総括とする。			
成績評価の方法・基準（100％）						
研究報告	レポート	参加貢献度				
40	30	30				
授業への参加貢献度、研究報告、レポート等 総合的に評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
1回の講義に2時間程度の予習復習を行うこと。予習は、テキストの熟読した後、新聞の社会面、政治面、経済面などから、法律問題に関する記事を選び、その記事を理解できる法律及びその解釈をテキストやネットを利用して調査する。疑問点があれば、講師に質問すること。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
授業終了後、返却する。						
教科書						
「私たちと法」（2訂版）平野武・平野鷹子（著） 法律文化社						
参考図書						
テキストに引用されている法令や判例を授業内で紹介する。						
備考：履修者への要望						
報道されるニュースを法的な問題として関心をもつよう心掛けてください。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
文章力を磨く		リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名						
緑川 幸成						
授業概要						
文章表現には単に思想や感情を伝達したり、コミュニケーションをとるための社交手段ではない。表現そのものの内に民族の歴史、あるいは社会・文化の特性を有し、さらに認識構造の原型を潜ませている人間探求の拠り所である。本講義では表現を通じて自己を見つめ、通底する普遍的人間性の追求まで進んで行きたい。						
学習到達目標						
形式的主義や常套的表現に陥ることなく、自己の生の在り様や感覚の実相に迫ることが表現を学ぶことの本来の目的である。本講義では既成の思考、紋きり型の言葉遣いを相対化し、高度な次元での価値判断と言語選択能力の養成を目標とする。						
授業形態						
講義		講義形式で行う。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	緑川	文章表現とは何か	表現と自己発見・自己改革との関係について学習する。			
2	緑川	文章表現の歴史	日本語表現の歴史の変遷とそお背景について学ぶ。			
3	緑川	文章表現の種類 (1)	文章に用いられる具体的な修辞法について学ぶ。			
4	緑川	文章表現の種類 (2)	修辞法の具体的な種類ついて様々な実例をもとに学ぶ。			
5	緑川	文章表現の種類 (3)	日常用いられていながら定義の曖昧な表現方法について考える。			
6	緑川	文章表現の種類 (4)	無意識に使われている表現の問題について多くの事例を見ながら学ぶ。			
7	緑川	文章表現の種類 (5)	比喩表現全体について再検討を行い、それぞれの特徴を再認識する。			
8	緑川	文章表現の種類 (6)	比喩以外の表現についてその定義と効果について学ぶ。			
9	緑川	文章表現の種類 (7)	特別な表現と考えられていないものに名称があり、独自の効果があることを学ぶ。			
10	緑川	文章表現の種類 (8)	日本に特徴的な思考と表現の関係について学ぶ。			
11	緑川	文章表現の種類 (9)	目的に応じた文章表現の形態・形式について学ぶ。			
12	緑川	文章表現の種類 (10)	テーマを明確にし、主旨を確実に伝える文章表現について理解する。			
13	緑川	表現とメディアとの関係 (1)	映像メディアと文章表現の影響関連について事例をもとに考える。			
14	緑川	表現とメディアとの関係 (2)	音楽・ネットメディアと文章表現の影響関係について様々な例に触れながら学ぶ。			
15	緑川	自己表現の必要性と目的	表現における個性とその意義について全講義を通して考える。			
成績評価の方法・基準 (100%)						
筆記試験	参加貢献度					
50	50					
筆記試験・授業への参加貢献度 (100%)						
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
毎回取り上げた表現方法について、授業内で示したものだけでなく他の用例も自身で調べ、また実際に用いる訓練を積み、常に表現を生きたものとしてえ捉える努力を望む。(予習・復習ともに2時間程度)						
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法						
試験の返却方法は、講義に中で指示する。						
教科書						
「レトリック感覚」佐藤信夫 講談社学術文庫						
参考図書						
講義の中で示す。						
備考：履修者への要望						
受け身ではなく、積極的な姿勢を望む。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
植物学概論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名						
石黒 茂						
授業概要						
植物についての基礎的・基本的な知識と、最近の植物学の知見や技術などが日常生活にどのようにかかわっているのかについて学習する。この学修をとおして、身近な自然に興味関心を持ち、科学的な視点をもって社会生活に主体的に参加できる態度を身に付ける。						
学習到達目標						
①植物特有な生命のシステムと、動物との共通性について理解し、身の回りの植物について関心をもつことができる。 ②現代の暮らしの中で、植物が人の生活に果たしている役割の重要性を認識することができる。 ③科学的な見方や考え方を身に付け、科学的に正しい思考や価値判断をすることができる。						
授業形態						
講義		配付資料とスライドを用いた講義を対話形式で行う。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	石黒	植物の形態	植物の細胞、組織、器官の特徴について学修する。			
2	石黒	植物の分類と進化	植物の進化の歴史と多様性について学修する。			
3	石黒	植物の生殖と発生	生殖方法、受粉と受精、発生の過程、世代交代について学修する。			
4	石黒	植物の遺伝	遺伝の仕組み、特に植物に特有な遺伝の仕組みについて学修する。			
5	石黒	植物をつくる物質	植物をつくる物質、特に植物に特徴的な化学物質について学修する。			
6	石黒	光合成の仕組み	光合成の仕組みと環境に対しての適応について学修する。			
7	石黒	炭酸同化と窒素同化	炭酸同化と窒素同化の仕組みとその重要性について学修する。			
8	石黒	植物の反応Ⅰ	植物の外界からの刺激に対する反応について学修する。			
9	石黒	植物の反応Ⅱ	植物の反応における植物ホルモンのはたらきについて学修する。			
10	石黒	植物の反応Ⅲ	植物の環境応答、特に花芽形成の仕組みについて学修する。			
11	石黒	植物の多様性	さまざまな植生を通して生物群集の植物の多様性、種多様性と生態系多様性を学修する。			
12	石黒	植物のバイオテクノロジーⅠ	DNA、遺伝子組換え植物について学修する。			
13	石黒	植物のバイオテクノロジーⅡ	植物ホルモンによる調節、特に植物ホルモンのはたらきについて学修する。			
14	石黒	現代の暮らしと植物Ⅰ	現代生活において植物はヒトとどのようにかかわっているか、植物と現代の暮らしとの関わりについて学修する。			
15	石黒	現代の暮らしと植物Ⅱ、まとめ	講義全体をとおしてのまとめを行い、植物と自分の生活との関わりについて自らの考えを明確にする。			
成績評価の方法・基準（100％）						
筆記試験	ポートフォリオ	参加貢献度				
50	30	20				
授業16回目：試験となります。 講義への参加・貢献（学習意欲・講義への参加・発表態度）（20％）、ポートフォリオ（30％）、筆記試験（50％）で評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで、授業に臨むこと。（約30分～1時間） （復習）1日の授業ごとに学修したことを振り返り、ポートフォリオシートを作成し、次の授業までに提出すること。（約30分～1時間）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
ポートフォリオシートは、その内容を読み、間違った理解や見方・考え方など正すべき点、疑問に思っていることについてコメントして返却する。対話形式で授業を進めるので、疑問点があれば、その都度フィードバックする。						
教科書						
使用しない。授業用のプリント・資料を使用する。						
参考図書						
参考資料を講義の中で配布する。参考文献は高等学校で使っていた生物図説（図録）等、他は講義の中で紹介する。						
備考：履修者への要望						
今までに学んだ生物の知識を深め、植物に対する新たな見方・考え方を身に付け、身近な植物や新聞等の記事にも関心をもってもらいたい。そして、日常生活の中で、間違った情報に流されず、科学的に考えることができ、適切な判断ができる人になってもらいたい。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
哺乳類の進化概論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名						
伊藤 宗之						
授業概要						
哺乳類の進化は、1) 無脊椎動物の道、2) 脊椎動物の道、3) 哺乳動物の道と歩んできた。 1) の出発はゾウリムシのような単細胞動物（原生動物門）で20くらいの門を過ぎると、 2) の脊椎動物門から脊椎街道に入る。 最初の宿場ヤツメウナギ（円口綱）である。魚綱、爬虫綱など6綱ほどを進ると、3) の哺乳街道にはいるが、最初は単孔目のカモノハシである。本論は漸くここからであるが、哺乳綱として食肉目、奇蹄目、偶蹄目など約20種類の目を究極の霊長目を目指して学ぶ。						
学習到達目標						
哺乳類の進化はヒトは最前線を行っているのだが、今も遅れて？脊椎街道の中ごろを走っている両生綱のカエルなどもいる。哺乳類は脊椎動物のなかではもっとも新しく、恐竜絶滅後、発生したようにみえるが、実は爬虫類も哺乳類も同じ時代を生きていた。むしろ恐竜より早く消え去った哺乳類の祖先の化石も存在する。ただ爬虫類、哺乳類は魚類よりは遅い。動物界の栄枯盛衰は気候変化などのため、順応できる種類の動物が生き残って現在の姿があるのか、未知の大きな意志が働いて進化の方向の舵取りがなされたのか。データを集めて考察する。						
授業形態						
講義		セミナー形式				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	伊藤	序章：脊椎動物まで	単細胞動物から脊索動物までの進化を学ぶ。 神経細胞の散在性、索状性を経て管状の中枢性まで。 途中、新口、旧口動脈の別れと昆虫の繁栄。			
2	伊藤	脊索動物門の進化	脊椎動物（正確には亜門）には円口類（正確には綱）、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類が現われた。			
3	伊藤	乳腺の起源	6500万年前、恐竜が絶滅したあと、哺乳類が爆発的に種と数を増やしたが、それ以前に一度、大繁栄と大絶滅を経験している程のくらい、地球の常連であった。			
4	伊藤	哺乳綱の位置	古代の動物分類でもクジラは魚の類に入らず、ヒトと同じ胎生とされた。近年ではリンネの分類が界、門、綱、目、科、属、種で決まり。			
5	伊藤	海に帰ったクジラ	哺乳類は恐竜絶滅時、完成していた。しかし、今のヒトもイヌもとトラもまだ居ない。アデロはもう居ない。絶滅を見届けたのはキモレストスという種。			
6	伊藤	適応放散と収斂進化	大陸間に見られる収斂進化 上位分類間に見られる収斂進化 大陸内に見られる適応放散			
7	伊藤	カモノハシ カンガルー ケダモノ	おそらくこの順に進化したが、生存競争力もアップ。 ケダモノで胎盤を得たが、デメリットも。 先天性トキソプラズマ症。			
8	伊藤	乳汁-分類名の由来-	ホルスタインの起源と交雑の歴史 一般に交雑可能とは-地域と染色体数の制限- 牛乳が苦手な日本人			
9	伊藤	哺乳類の特徴	乳腺、乳首、胎盤、肋骨退化 リンパ節、ケモノ、耳介、ヒゲ 三耳小骨、二足歩行、言語、スマホ			
10	伊藤	閑話休題	慈尊院は女人の行けない高野山の麓にあり、空海の母親ですらここに留まらねばならない。女人の高野山として授乳信仰の寺となる			
11	伊藤	サル目-ヒト科 ヒト科-ホモ属	哺乳類進化の終章は「サルからヒトへ」、「ヒトから現代人へ」である、サル目の階層構造を学ぶ。			
12	伊藤	猿人、原人、サビエンス	サルの北限は驚くなかれ日本である。 猿人はアフリカに限っていた。 人類のアフリカ単一起元説。			
13	伊藤	人類と猿 人類と脳 日本のY染色体遺伝子	人類史のハプニングと癌、脳 現代人と言語 日本人の起源			
14	伊藤	原著を味わう	100年前のアウストラピテクス原人発見論文を読む			
15	伊藤	原著に挑戦する 自由討論	6年前の台湾沖での数少ないアジアでの原人発見の論文を読む。 ヒトとその他哺乳類のオーストラリア大陸/南米大陸での分布。			
成績評価の方法・基準（100%）						
筆記試験	参加貢献度					
70%	30%					
筆記試験（70%）、参加貢献度（30%）						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
原著論文抄読ではあらかじめ配布資料を読んでくる。（2時間程度）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
4回の授業毎にテストを計3回行う。次回、返却する。						
教科書						
なし						
参考図書						
Dart, R.A Australopithecus africanus, Nature, 1925, 195-199; Chang, C-H. The first archaic Homo from Taiwan, Nature Communications, 2015, (6) 6037-						
備考：履修者への要望						
我々は動物学者ではない。進化の中で起こったことにはどんな理由があったのか。データを集め、独自の推論を試みる。その後で専門書でさらに詳しいデータに当たって学界の定説を鑑賞する。哺乳類に興味のある学生さんを待ってます。興味の無い向きもどんな授業かを見に来てください。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床体表解剖学		リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
松村 仁実						
授業概要						
理学療法士、作業療法士に必要な運動器、神経系、血管系、胸部腹部臓器などの解剖学的基礎知識の上に、検査測定や治療などに必要な触察技術を学ぶ。 また、運動学的な観点を併せて、人体の機能や構造を立体的に理解し、臨床における評価治療技術に繋げられる力を身につける。						
学習到達目標						
臨床上の評価や治療に直接関わる触察技術を身につける。						
授業形態						
講義		講義および実技実習によるアクティブ・ラーニングにて進める。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	松村	概論、骨指標	体表解剖学の意義、骨指標について学ぶ。			
2	松村	上肢帯、上肢	上肢帯、上肢の体表解剖、触察技術を学ぶ。			
3	松村	上肢帯、上肢				
4	松村	手、手指	手、手指の体表解剖、触察技術を学ぶ。			
5	松村	下肢	下肢の体表解剖、触察技術を学ぶ。			
6	松村	体幹、骨盤部周囲	体幹、骨盤部周囲の体表解剖、触察技術を学ぶ。			
7	松村	体表解剖と臨床評価技術	臨床における各種検査と体表解剖との関係を学ぶ。			
8	松村	講義（まとめ）	まとめと試験			
成績評価の方法・基準（100%）						
レポート	実技試験					
50	50					
実技試験（50%）、レポート（50%）						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業前に、臨床において触察技術の向上が治療に生かせる場面をを想定してください。（予習・復習：1時間程度） 授業後には、内容を振り返り、臨床場面での応用と、触察技術の向上により可能になったことなどをまとめ、レポートを提出してください。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
実技試験は終了後に、フィードバックをします。						
教科書						
解剖学成書						
参考図書						
解剖学成書・検査測定関係成書						
備考：履修者への要望						
臨床での検査測定には体表解剖学知識は必須です。確実に身につけられるように、解剖学、運動学とともに復習をしてください。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
病態運動・生理学		リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
長谷川 昇 ・ 宮津 真寿美						
授業概要						
人間の身体運動・動作を科学的にとらえるため、神経と骨格筋の情報伝達における病態生理学および薬物治療を学ぶ。						
学習到達目標						
①神経と骨格筋の情報伝達のしくみを、分子細胞生物学的に説明できる。 ②神経と骨格筋の連絡障害と、その病態生理学、薬理学が説明できる。						
授業形態						
講義		教科書や配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながらゼミ形式で講義を進める。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	宮津	分子生物学概論	細胞、機能分子であるタンパク質、細胞内シグナル伝達			
2	宮津	神経と骨格筋の情報伝達①	分子から見た神経伝導			
3	宮津	神経と骨格筋の情報伝達②	分子から見た神経伝達			
4	宮津	神経と骨格筋の情報伝達③ 試験	分子から見た筋収縮 試験			
5	長谷川	薬の動きから見た薬物治療	薬物の作用点と体内動態			
6	長谷川	病態からみた薬物治療①	神経系疾患の病態生理学と治療薬			
7	長谷川	病態からみた薬物治療②	筋・骨格系疾患の病態生理学			
8	長谷川		筋・骨格系疾患の治療薬 試験			
成績評価の方法・基準（100％）						
レポート						
100						
レポート（宮津50％＋長谷川50％）で評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
【長谷川・宮津】講義範囲に関する生理学的知識について、2時間程度の予習を行うこと。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
【長谷川・宮津】課題・レポートは後日返却します。						
教科書						
「トートラ人体解剖生理学」丸善						
参考図書						
講義の中で示します。						
備考：履修者への要望						
オムニバス方式で講義する。各教員の指示に従うこと。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床発達障害学		リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
高田 政夫						
授業概要						
定型発達を中心に乳幼児の発達の理解を深める。また、定型発達過程から発達障害児の運動障害・生活障害を検討する。さらには年齢を経るに従い、様々な日常生活活動（ADL）に影響を及ぼす二次障害についても学ぶ。						
学習到達目標						
今までの臨床の専門課程で修得した事項の再学習を行い理解を深める。 また、臨床での症例検討を通して、実践に即した理学療法・作業療法を展開できる。						
授業形態						
講義		講義及グループ・ワークによるアクティブ・ラーニングにて進める。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	高田	治療的関わり (人の理解について)	講義オリエンテーション 「人の理解」を再整理し、対人援助活動としての治療的な関わりを学習する。			
2	高田	発達障害について	発達障害の定義を知る。			
3	高田	発達障害児の特徴理解	脳性麻痺児及び自閉症児を中心にその疾患の特徴を学習する。			
4	高田	定型発達、正常運動発達の理 解	正常運動発達を通じて、姿勢や運動の成立を学習する。			
5	高田	発達障害児の治療展開	脳性麻痺児や発達障害児の症例から、具体的な症状と問題点の関連性を学習する。			
6	高田	発達障害治療の実際①	症例提示を通じて、その実践的な関わりについてグループワークし、治療的関わりを再考する。			
7	高田	発達障害治療の実際②				
8	高田	授業と試験				
成績評価の方法・基準（100％）						
レポート	参加貢献度					
80	20					
課題レポート（80％）、授業への参加貢献度（20％）						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
人間発達や発達障害に関する手持ちの書籍や資料などを学習しておいてください。 また、日頃の臨床場面における症状と問題点の関連や統合と解釈について整理しておいてください。（2時間程度）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
課題レポートは、講義の中で治療に関わるための各問題点の関連性を受講生と一緒に内容確認し、指導・援助していきます。						
教科書						
特になし						
参考図書						
宮尾益知，橋本圭司編 発達障害のリハビリテーション：多職種アプローチの実際、医学書院，2017.3 その他、講義の中で提示します。						
備考：履修者への要望						
日頃の臨床場面での評価から治療的関わりまでの経験過程をまとめていただき、グループワークにおいてその経験値をお互いに伝え合うよう積極的に参加してください。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 単位時間	総時間数
運動器系障害リハビリテーション論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
宮津 真寿美						
授業概要						
理学療法・作業療法と関連する運動障害に伴う症状とその原因、および関連研究を学ぶ。						
学習到達目標						
運動障害の原因となる筋機能障害が説明できる。						
授業形態						
講義		スライドを用いた講義と、論文抄読によるゼミ				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	宮津	筋肥大	筋肥大について学修する。			
2	宮津		筋肥大に関する研究について学修する。			
3	宮津	筋萎縮	筋萎縮について学修する。			
4	宮津		筋萎縮の研究について学修する。			
5	宮津	筋性短縮	筋性短縮について学修する。			
6	宮津		筋性短縮の研究について学修する。			
7	宮津	筋損傷 試験	筋損傷について学修する。			
8	宮津		筋損傷の研究について学修する。 筋機能に関する研究論文を報告する。			
成績評価の方法・基準（100％）						
レポート	発表					
50	50					
筋機能に関する研究論文の報告（レポート50％、発表50％）						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
適切な研究論文を探し、論文紹介できるよう準備をするのに、約3－10時間かかる。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
課題は返却する。また、発表の際にフィードバックする。						
教科書						
なし。適宜資料を配布する。						
参考図書						
筋機能改善の理学療法とそのメカニズム（ナツプ）						
備考：履修者への要望						
この授業では、筋機能障害の基礎を学修するとともに、研究論文を紹介することで、研究論文を読み、論文を紹介する能力を向上させる。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内部疾患系障害リハビリテーション論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
臼井 晴信						
授業概要						
内部疾患は多くのリハビリテーション対象者が罹患しています。リハビリテーションにおける内部疾患の管理は、エビデンスが確立されている部分もありますが、発展途上の分野です。最新情報は常に更新され、その情報を臨床へ応用することが求められています。本講義では循環器、呼吸器疾患、糖尿病に対する疾患管理として理学療法の役割を学びます。また、予防の視点から内部疾患に対する理学療法の役割を学びます。そして、最新の英語論文から、内部疾患系障害リハビリテーションの最新のトピックスを紹介し、臨床活動との接点を探ります。						
学習到達目標						
内部疾患に対する疾患管理としての理学療法の役割を説明できる。 予防の視点をもった内部障害の管理を説明できる。 世界の内部疾患リハビリテーションの最新のトピックスを理解し、臨床活動に役立たせることが出来る。						
授業形態						
講義		ディスカッション形式により講義を行います。講義の中でスライドやレジュメにより情報を提供します。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	臼井	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患に対する理学療法について臨床疑問を抽出し考察します。			
2	臼井	呼吸器疾患のリハビリテーション	呼吸器疾患に対する理学療法について臨床疑問を抽出し考察します。			
3	臼井	英文抄読	臨床疑問を基にした英語論文を読み理解します。			
4	臼井	臨床疑問の整理	内部疾患に対する臨床疑問を整理します。 整理した疑問をもとに討論します			
5	臼井	生活習慣病と予防	内部疾患を統合的に解釈します。 予防的視点を持った理学療法について討論します。			
6	臼井	実験計画	臨床での疑問を解決するための実験計画を立案します。			
7	臼井	実験	臨床での疑問を解決するために短大にある測定機器を用いて実験を行います。			
8	臼井	発表	臨床での疑問および実験計画・結果について発表します。			
成績評価の方法・基準（100％）						
発表	参加					
80	20					
発表（ディスカッション、症例報告）（80％）、講義や実験への参加（20％）で評価します。 内部障害または運動生理学に関する実験計画を立て、実際にデータ測定をし発表をして頂きます。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
内部疾患に関する臨床での疑問を整理しておいてください(2時間程度)。ディスカッションにより解決の糸口を共に探りたいと思います。 臨床の疑問を実験的研究や臨床研究に応用します。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
講義の中で討論しフィードバックします。						
教科書						
資料を配布します。						
参考図書						
講義中で提示します。						
備考：履修者への要望						
内部疾患領域におけるリハビリテーションの新たな可能性を、独創的な視点で考えましょう。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
スポーツ障害リハビリテーション論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
鳥居 昭久						
授業概要						
スポーツ外傷や障害についての基本的知識を学び、文献抄読などを通して最新のスポーツ障害に対するリハビリテーション知識を身につける。 基本的に、前半は講義、後半及び、課題として文献抄読を予定しています。また、関係学会もしくはフィールドワーク課題を実施します。						
学習到達目標						
スポーツ障害とそのリハビリテーションの実践について学び、実際に臨床やフィールド場面で実践できる。						
授業形態						
講義		講義(実技含む)				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	鳥居	スポーツ障害の基礎知識	整形外科系スポーツ障害について学ぶ			
2	鳥居	スポーツ障害の基礎知識	内科・婦人科系スポーツ障害について学ぶ			
3	鳥居	スポーツ障害と リハビリテーション	メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションへの過程について学ぶ			
4	鳥居	スポーツ障害と リハビリテーション	アスレティックリハビリテーションの実践と理学療法士、作業療法士の関わりについて学ぶ			
5	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリ テーション	関係分野論文抄読もしくは関係学会・研修会出席			
6	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリ テーション	関係分野論文抄読もしくは関係学会・研修会出席			
7	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリ テーション	関係分野論文抄読もしくは関係学会・研修会出席			
8	鳥居	講義と試験	まとめと試験			
成績評価の方法・基準 (100%)						
筆記試験	発表					
50	50					
論文抄読発表もしくは学会参加報告発表 (50%)、知識試験(筆記試験) (50%) (関係学会に出席し、参加レポートを提出した場合にはそれを出席と同等と判断する場合があります)						
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間						
積極的に論文収集、読解に取り組むことを望みます (1時間程度)。						
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法						
講義の際にコメントします。						
教科書						
講義において指示します。						
参考図書						
関係成書全般						
備考：履修者への要望						
関係論文を読み、実際に臨床現場やフィールド場面に応用していくことで理論が身に付くと考えます。積極的な活動を求めます。						

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
中枢神経系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
伊藤 宗之 ・ 加藤 真弓 ・ 加藤 真夕美					
授業概要					
中枢神経疾患の病態、障害像、機能回復に関わるメカニズムを学習する。 運動障害、認知機能障害に関連する生活活動における問題点の分析と、より効率的な理学療法・作業療法を学習する。					
学習到達目標					
【伊藤宗之】中枢神経系疾患の概念を学習し、脳局在と症状の関連性について他者に説明することができる。 【加藤真弓】機能回復に関わるメカニズムを学習し、それを踏まえ身体障害と身体障害に関連した生活機能障害の分析し、リハビリテーション方法を検討することができる。 【加藤真夕美】認知機能の障害について、それらが作業遂行能力に及ぼす影響と評価手段、及び治療的介入の方法を論理的に検討することができる。					
授業形態					
講義	オムニバス形式とする。第1・2回は主に講義形式、第3～8回は講義および演習形式で行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	伊藤	錐体路に絡みつく大脳基底核と小脳系	運動野に発する錐体路は基底核を腹に抱え、小脳、脳幹を背中に負ぶって歩く母親のようなものである。内なる刺激、外からの補正を統合している上位ニューロンを学修する。		
2	伊藤	高次脳機能の概念。語源はパブロフ。意味は精神作用。	感覚が局所脳神経機能なら、認知が高次脳機能であろう。一次運動野、一次感覚野が無条件の世界なら、連合野が条件反射の世界と考えられたのであろう。これらのことを学修する。		
3	加藤真弓	運動障害と生活機能障害	心身機能回復のメカニズム、運動障害が生活機能障害に及ぼす影響および障害改善のための介入方法について、事例を通して検討する。		
4	加藤真弓				
5	加藤真弓				
6	加藤真夕美	認知機能障害と作業遂行能力	認知機能の障害が作業遂行能力に及ぼす影響と評価手段および治療的介入の方法について、事例を通して検討する。		
7	加藤真夕美				
8	加藤真夕美				
成績評価の方法・基準（100％）					
レポート	発表	参加貢献度			
30	30	40			
レポート作成（30％）、口述発表（30％）、授業中の発言（40％）で評価します。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【伊藤・p加藤・o加藤】対応方法に課題を抱えている臨床事例についてレポート（パワーポイントでの作成も可）にまとめて頂きます。約90分					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
【伊藤・p加藤・o加藤】第3～8回の授業内でレポートの事例を意見交換を通して検討します。					
教科書					
随時資料を配布します。					
参考図書					
随時資料を紹介します。					
備考：履修者への要望					
臨床実践で悩んでいることや疑問に思ったことを受講生と講師で共有し、検討する機会とする予定です。 日頃の疑問や実践の成果などを持ち寄り、皆でディスカッションし情報交換とともに解決の糸口を探しましょう。					

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域・老年期リハビリテーション論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
木村 菜穂子 ・ 山下 英美						
授業概要						
地域リハビリテーションという幅広い概念の中で、特に高齢期を対象としてその身体・精神面での特性を知り、包括的なリハビリテーション支援を必要とする人々への援助方法などを学修する。						
学習到達目標						
①高齢期にある人々の身体的・精神的特性を学修し、その人たちに対するリハビリテーション支援の必要性和具体的な支援方法について考えることができる。 ②健康促進と予防的観点から、地域におけるリハビリテーションを運動機能面と認知機能・生活行為の面から考え、自分の考えを発表することができる。						
授業形態						
講義	配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながら講義を進める。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	木村	運動機能に関する視点から－ 老化とは	老化とは何か、高齢期に頻繁に見られる特性について学習する。			
2	木村	運動機能に関する視点から－ 運動機能・感覚機能の老化	高齢期にみられる、運動器・感覚器の変化について学習する。			
3	木村	老年期のリハビリテーション－ 運動器へのアプローチ	高齢期に起こる身体的変化を元に、高齢者に対するリハビリテーションについて、運動器へのアプローチを中心に学習する。			
4	木村	老年期のリハビリテーション－ 予防的観点からのアプローチ	高齢期に起こる身体的変化を元に、高齢者に対するリハビリテーションについて、予防的観点からのアプローチを中心に学習する。			
5	山下	認知機能と生活行為に関する 視点から－ 認知機能の特性	高齢期にある人々の認知機能の特性について、最新の知見を学修し、リハビリテーション支援の必要性について考察する。			
6	山下	認知機能と生活行為に関する 視点から－ 生活行為の特徴	高齢期にある人々の生活行為の特徴について、運動機能・感覚機能・認知機能の低下と関連づけて理解し、リハビリテーションの必要性について考察する。			
7	山下	地域における、認知機能に対する リハビリテーション	地域における、認知機能に対するリハビリテーションに関して、具体的な実践例について学修し、その意義を考察する。			
8	山下	地域における、生活行為向上 のためのリハビリテーション	地域における、生活行為向上のためのリハビリテーションに関して、具体的な実践例について学修し、その意義を考察する。			
成績評価の方法・基準（100％）						
レポート	参加貢献度					
80	20					
課題（レポート等）（80％）、授業への参加貢献度（20％）						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
（予習）事前に参考図書を指定しませんが、社会情勢に関心を持ち、マスメディア等からの情報収集に努め問題意識を持って講義に臨んでください。（約1時間） （復習）講義後は、配布資料をもとに講義内容を振り返り、課題に取り組み、学修内容を臨床での実践に活かしてください。（約1時間）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
講義の中で課題作成のためのフィードバックをディスカッションという形で行います。提出されたレポートに関してはメールなどでフィードバックすることもあります。						
教科書						
随時資料を配布します。						
参考図書						
講義中で提示します。						
備考：履修者への要望						
ご自身の日々の実践をもとに、地域におけるリハビリテーションの可能性について、一緒に考えてみましょう。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神機能系障害リハビリテーション論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
横山 剛						
授業概要						
人の一生を概観し、その年代ごとの発達課題を理解する。それを元に治療プログラムとの関連を考察していく。						
学習到達目標						
①精神障害分野のリハビリテーションにおける治療介入の意味の理解ができるようにする。 ②事例を通してそれぞれの理論の具体的な方法の理解ができるようにする。 ③精神障害におけるリハビリテーションの説明ができるようにする。						
授業形態						
講義		質問を交えての講義形式				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	横山	心理社会的発達の理解1	乳幼児期・学童期の心理社会的発達課題			
2	横山	心理社会的発達の理解2	青年期の心理社会的発達課題			
3	横山	心理社会的発達の理解3	成人期の心理社会的発達課題			
4	横山	心理社会的発達の理解4	老年期の心理社会的発達課題			
5	横山	治療的応用1	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）			
6	横山	治療的応用2	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）			
7	横山	治療的応用3	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）			
8	横山	治療的応用4	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）			
成績評価の方法・基準（100％）						
レポート	参加貢献度					
80	20					
授業への参加貢献度（20％）、レポート報告（80％）で評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
自身が担当した患者について授業の進行に合わせて、心理社会的発達段階に従いまとめてください。（1回の講義につき30～1時間程度）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
毎回の授業の中で、質問に応じます。また途中であってもレポートのフィードバックをします。						
教科書						
特になし						
参考図書						
特になし						
備考：履修者への要望						
患者の生き生きとした生活や人生を取り扱おうとすると、心理社会的発達理論を応用することができますので理解に努めていきましょう。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生活環境リハビリテーション論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
山下 英美						
授業概要						
生活環境は、障害をもつクライアントの生活の再構築を左右する。本講義では、クライアントの日常生活における仕事、余暇、家事、セルフケアなどの生活作業と、個人要因、そして生活環境に焦点を当て、その範囲と概念、影響力について、理論との関連を踏まえて学習する。また、個人的意味と健康促進といった範囲へも広げ、障害のある当事者の生活における権利を守る社会構築や社会の在り方へも話題を広げて、リハビリテーションの社会的使命や将来展望について意見交換をしていきたい。						
学習到達目標						
・作業に影響を与える環境要因の範囲について理論に基づき説明できる ・行いたい作業に見られる、その環境の意味について、自分の経験を振り返り、発言することができる ・環境に焦点を当てたアプローチの種類について説明できる ・環境に焦点を当てたリハビリテーション実践の論文を検索できる ・文献抄読の資料を作成できる ・生活環境としての地域社会の発展について、OT、PTの役割と未来の可能性について意見を述べるができる ・臨床の疑問とそれに対する今後の取り組みについて意見をまとめ、発表することができる						
授業形態						
講義		講義、グループワーク、実技（文献検索等）				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	山下	環境と理論	作業療法士が、環境をどのように捉えるのかについて、理論を通してその見方を学習する。			
2	山下	環境の範囲	環境とは何かについて、「家族、人、文化、社会、経済、場所、空間、物」など、対象（範囲）とその概念について学習する。			
3	山下	環境の影響力	作業的場所と空間の意味について、自己分析および論文に基づき学習する。			
4	山下	環境に焦点を当てる（1）	環境の調整・選択・変更、作業遂行分析に焦点を当てながら、実際の作業療法の臨床場面を分析する方法を学ぶ。			
5	山下	環境に焦点を当てる（2）	作業療法における「環境」に関連する具体的課題をあげ、その課題解決に必要な論文を検索する方法を学習する。			
6	山下	社会構築とリハビリテーション	WFOTの取組を学ぶことを通して、作業療法士の社会的な見方について学習する。			
7	山下	発表資料の作成	臨床の疑問から、文献検索、今後の提案までの流れを資料として作成する経験をする。			
8	山下	まとめと発表	臨床の疑問から根拠ある実践提案までのプロセスを発表する経験をする。			
成績評価の方法・基準（100％）						
発表	参加貢献度					
60	40					
授業への参加貢献度（40％）、発表（60％）						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
（予習）講義のテーマや内容に関する情報を主体的に調べて下さい。（約1時間） （復習）発表に向けては講義時間外にも積極的に取り組んでください。（約1時間）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
講義の中でのフィードバックは、ディスカッションの形で行います。発表内容に関しては発表の場でフィードバックをしていきます。						
教科書						
指定するものではありません。						
参考図書						
講義において適宜文献を紹介します。						
備考：履修者への要望						
生活環境の影響力について知識を深めることによって、臨床においても、環境に焦点を当てた実践や環境を変える取り組みに関心を広げ、リハビリテーション領域の社会的使命と新たな可能性を感じていただけたらと思います。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
応用臨床心理学		リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
山田 ゆかり						
授業概要						
病気や障がい、あるいはライフサイクルにおけるさまざまな経験によって引き起こされる心理的問題に対する臨床心理学的援助の実践について学ぶ。専門的援助においては、病気や障がいだけでなく援助を受ける人の行動やパーソナリティ全体を理解することが重要である。効果的な援助をするための知識と実践能力を高め臨床に生かしていくことを目指す。						
学習到達目標						
臨床心理学的専門援助の基本理論・技法について十分な知識を獲得し、臨床現場で経験する心理的問題への心理的援助の実践能力を高め、臨床に生かすことができるようになる。						
授業形態						
講義	教科書・資料の輪読、グループワーク、プレゼンテーション					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	山田	現代医療と臨床心理学	医療領域における臨床心理学の役割、チーム医療を基盤とするメンタルケアの展開について学修する ：教科書 第1章			
2	山田	臨床心理学、医療心理学の基本的問題	臨床心理学、医療心理学の基本的事項について知識を確認し、補うための学修をする ：配付資料No.1			
3	山田	リハビリテーション領域での問題（2） 問題の基本的理解	リハビリテーション領域で考慮すべき心理的問題とその対応について学修する ：教科書 第11章、第111章			
4	山田	リハビリテーション領域での問題（3） 問題の検討	リハビリテーション領域で考慮すべき心理的問題とその対応と評価について、グループワークによって学修する			
5	山田	心理アセスメント	質問紙法、投影法について臨床場面での適用と分析の実践について学修する ：配付資料No.2			
6	山田	事例検討1	事例を提出し、プレゼンテーションを行い、それに基づいてグループワークにより検討を行う			
7	山田	事例検討2	事例を提出し、プレゼンテーションを行い、それに基づいてグループワークにより検討を行う			
8	山田	講義	これまでの学修を通して得たことをまとめ、総括する			
成績評価の方法・基準（100％）						
レポート	事例検討	参加貢献度				
30	30	40				
授業中の討論などへの参加態度（40％）、事例検討（30％）、課題レポート（30％）で総合的に評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
自らの日常の臨床業務のなかで、心理臨床的援助が有効と思われるケースについてまとめておく。また、授業で学んだことをまとめ、復習し、前述のケースにどう反映できるかについて考察する。準備学修および復習に必要な時間は、毎回60分程度。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
ゼミ形式の授業の中で、その都度フィードバックを行う。						
教科書						
「理学療法士 作業療法士のための治療心理学 患者によりそう行動アプローチ」武田建・中俣恵美・出田めぐみ（著）創元社						
参考図書						
「医療心理学実践の手引き 出会いと心理臨床」 乾吉佑（著） 金剛出版 「医療心理学の新展開 チーム医療に活かす心理学の最前線」 鈴木伸一（編著） 北大路書房 「医療現場に生かす臨床心理学」 菅 佐和子（編著） 朱鷺書房						
備考：履修者への要望						
患者さんや対人援助サービスの利用者と適切なコミュニケーションをとり、心理的問題への援助をするための基礎的な資質、カウンセリングの素養を身につけることができるように、授業に臨んでください。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療福祉行政学		リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
舟橋 啓臣 ・ 木村 菜穂子						
授業概要						
【舟橋】我が国の医療の問題点を浮き彫りにし、医療行政が現実の医療と乖離していないか、などについて学習する。 【木村】社会福祉行政（主に高齢者介護）に関して、その歴史と背景・変遷、現状を学習し、その問題点について考える。						
学習到達目標						
【舟橋】我が国における医療福祉行政は医療の実態と適切につながっているかについて、深い議論ができる。 【木村】主に高齢期の介護問題を社会全体で支えるために創設された介護保険制度に関して、理学療法士・作業療法士を取り巻く現状を、その成り立ち、従来制度との関連、介護保険関連職種との連携などを通して理解し、また自分の考えを述べることができる。						
授業形態						
講義	配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながら講義を進める。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	舟橋	医療行政の歴史・現状および問題点	社会保障制度、医療保険の種類、海外の医療制度など			
2	舟橋		日本の医療の問題点、生活習慣病、健康日本21、特定健診・産業保健・勤労者医療など			
3	舟橋		医療と法律の歴史、医師法と医師法以外の職種に対する法律、個人情報保護法、医療事故と訴訟など			
4	舟橋		国際医療協力、リハビリテーションの定義・概念、関連法規、新しい技術や機器などこれまでの講義のまとめとテスト			
5	木村	福祉行政の歴史・現状および問題点	介護保険制度導入の背景			
6	木村		介護保険制度の実際とその変遷			
7	木村		介護保険制度と障害者総合支援法			
8	木村		介護保険制度の問題点と今後(まとめ)			
成績評価の方法・基準（100%）						
レポート	参加貢献度					
50	50					
【舟橋・木村】レポート50%、授業に取り組む姿勢50%						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
【舟橋】日頃からテレビや新聞による医療福祉行政についての報道に、関心を持って耳や目を傾けてほしい。（1時間程度） 【木村】介護・福祉行政に関して、身近にある事例を通して、疑問があれば明確にしておいていただきたいと思います。（1時間程度）						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
【舟橋】提出レポートを採点し、内容についての感想を個人に連絡する。 【木村】講義中、様々な問題点や疑問に対し、ディスカッションすることで対応します。また、課題に対してメールなどで振り返りを行うことがあります。						
教科書						
【舟橋】プリントを毎回配布する。 【木村】資料を配布します。						
参考図書						
【舟橋】「現代医療概論」医歯薬出版、「日本の医療政策と地域医療システム」日本医療企画 【木村】特にありません。						
備考：履修者への要望						
【舟橋】プリントを用意し、それを見ながらの相互議論を中心とした講義形態をとる。 【木村】講義の中で、自分の考えや意見を積極的に述べていただきたい。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療情報学		リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
鷺野 嘉映 ・ 斎藤 末広						
授業概要						
【鷺野】リハビリテーション科学を含む医療全体における問題解決能力を養うための、情報のあり方を学習します。情報を得るだけでなく、自ら発信することは、医療の進歩にとって重要です。多くの医療情報から意味ある情報を読みとり、解析し、それらを自ら表現して発信する術を学びます。 【斎藤】医療分野でも、プレゼンテーションが増えてきました。本講では、プレゼンテーションソフトを使って、スライド作成をできるようにします。次に、統計データを効果的に表現する方法を習得します。						
学習到達目標						
【鷺野】今日の医療情報の実態を理解するとともに、臨床現場を含む社会で活用できるようになる。また、医療情報を読み解くにあたり必須の統計知識を習得する。 【斎藤】MS-PowerePoint を使い、医学研究発表のためにスライドを作成できるようにする。妥当な統計処理をしたグラフを使えるようにする。						
授業形態						
講義	【鷺野】各自がパソコンを利用して実践的に学ぶ。 【斎藤】プリントを用いた講義形式、および、PCを用いた演習形式で実施します。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容			
1	鷺野	EBM (Evidence Based Medicine) の概要	EBMの重要性について理解する。			
2	鷺野	EBM (Evidence Based Medicine) の実践	テーマを決めて情報の収集選択を行う（演習）。			
3	鷺野	統計手法：量的データ	量的データの統計手法について総合的に学ぶ。			
4	鷺野	統計手法：質的データ	質的データの統計手法について総合的に学ぶ。			
5	斎藤	スライド作成	PowerPoint を利用して、医学研究発表を想定したスライドを作成する			
6	斎藤	スライド作成	PowerPoint を利用して、医学研究発表を想定したスライドを作成する			
7	斎藤	統計処理したグラフの作成	統計処理をしたグラフを作成できるようにする			
8	斎藤	統計処理したグラフの作成	統計処理をしたグラフを作成できるようにする			
成績評価の方法・基準（100%）						
（鷺野）小テスト	（鷺野）レポート	（斎藤）課題				
15	35	50				
【鷺野】授業時における小テスト（30%）、レポート（70%） 【斎藤】授業で作成する課題で評価する。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
【鷺野】（予習）1回の講義について、1時間程度本授業に関連する高校数学や研究法の教科について予習を行う。（復習）授業で学習した事項についての理解を深めるため、1回の講義について、1時間程度医療系の文献を検索し理解する練習を行い復習に努める。 【斎藤】先輩の研究発表のスライドの作り方を参考にすること。目安、授業以外に3時間。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
【鷺野】小テストは講義中に返却します。レポートの返却方法は、講義の中で指示します。 【斎藤】授業中にいっしょに確認する。						
教科書						
【鷺野】指定しない。適宜資料を配布する。 【斎藤】PowerPointの使い方の書籍を授業開始前に指示する。						
参考図書						
【鷺野】「バイオサイエンスの統計学 正しく活用するための実践理論」 市原清志(著) 南江堂 【斎藤】「ビジネス教養としてのデザイン 資料作成で活きるシンプルデザインの考え方」、佐藤好彦 著、インプレス						
備考：履修者への要望						
【鷺野】受け身ではなく、自ら問題意識を持って学ぶ姿勢が重要です。 【斎藤】情報機器やソフトウェアの利用に関し、困っている事、分からない事などあれば、この機会に一緒に解決しましょう。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
研究法演習		リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
宮津 真寿美・鳥居 昭久・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山下 英美・横山 剛・松村 仁実・高田 政夫						
授業概要						
研究とは何かを理解することを目的に、文献の抄読を行う。文献の検索、抄読、討論の過程で、現在までに何がわかっているか、何を明らかにするかを明確にし、研究方法、過程、研究に関わる諸問題について学習する。						
学習到達目標						
文献抄読を通じ、研究の概要を知る。						
授業形態						
演習		クラス分け方式にて行う。				
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	宮津 鳥居 加藤真弓 加藤真夕美 木村 臼井 山下 横山 松村 高田	論文抄読	(宮津 真寿美) 筋機能障害に対するリハビリテーションの分野を中心に、文献抄読を行う。			
2			(鳥居 昭久) スポーツ障害・障害者スポーツの分野を中心に、文献抄読を行う。			
3			(加藤 真弓) 中枢神経障害(特に身体機能障害)に対するリハビリテーション及び介護予防を中心に文献抄読を行う。			
4			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害(特に認知機能障害)に対するリハビリテーションを中心に、文献抄読を行う。			
5			(木村 菜穂子) 高齢者、特に維持期のリハビリテーション分野を中心に、文献抄読を行う。			
6			(臼井 晴信) 循環、呼吸、代謝疾患による障害に対するリハビリテーション分野の文献抄読を行う。			
7			(山下 英美) 高齢者、特に認知機能障害に対するリハビリテーション分野の文献抄読を行う。			
8			(横山 剛) 精神障害者、青年期にある人の心理社会的発達などに関する文献抄読を行う。			
成績評価の方法・基準(100%)						
論文紹介						
100						
論文紹介を行う(100%)。具体的には各担当教員が定める。						
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。						
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法						
各指導教員から随時行われる。						
教科書						
なし						
参考図書						
講義の中で適宜示します。						
備考：履修者への要望						
研究指導担当教員の指示に従うこと。						

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション科学研究Ⅰ		リハビリテーション科学専攻	1	必修	5単位 (15時間)	75時間
担当教員名						
＊研究のテーマにより、以下の教員から担当教員が決まる 宮津 真寿美・鳥居 昭久・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山下 英美・横山 剛・松村 仁実・高田 政夫						
授業概要						
各教員個別の指導により、研究目的や問題のたて方、研究の計画と実施の方法、論文の作成と発表のしかた、研究倫理について学び、研究の基礎的方法論を修得する。						
学習到達目標						
研究の基礎的方法論を修得する。						
授業形態						
講義	クラス分け方式にて行う。					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	宮津 鳥居 加藤 真弓 加藤 真夕美 木村 臼井 山下 横山 松村 高田	基礎的研究方法論	(宮津 真寿美) 筋機能障害の改善を目的とした理学療法・作業療法の効果に関する研究を中心に、研究方法論を学ぶ。 研究を実践し、研究で得られた結果等について討論することで、科学的思考過程を身につける。			
2			(鳥居 昭久) 「スポーツ」というキーワードの下に、スポーツ障害、障害者スポーツと、その関連事項、基礎事項などについての視野を広げる研究を実施する。特にフィールドワークを重視し、スポーツ現場での活動を反映させた研究を進める。			
3			(加藤 真弓) 高齢者の健康増進や介護予防に関する研究、または、中枢神経系障害（特に身体機能障害）の機能障害、活動制限に対するリハビリテーションの効果に関する研究の方法論を学ぶ。			
4			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害（特に認知機能障害）に伴って生じる活動制限に対するリハビリテーション効果の検討方法ついて、事例研究などを題材にその基礎的方法論を学ぶ。			
5			(木村 菜穂子) 維持期高齢者への理学療法士の介入における効果に関する研究を中心に、研究の方法論を学ぶ。			
6			(臼井 晴信) 運動生理学、内部疾患系障害患者に対するリハビリテーション評価、治療効果を検証するための研究方法論を学び科学的根拠を持ったリハビリテーションに応用する。			
7			(山下 英美) 高齢者の認知機能障害に関して、予防的観点を含んだ調査及び介入研究の基礎的方法論を学ぶ。			
8			(横山 剛) 精神障害者および健常者のの心理社会的発達に関して概観し実践研究の方法論を学ぶ。			
9			(松村 仁実) 身体機能障害に対する運動療法を中心としたリハビリテーションの効果やその評価方法に関する研究を中心に研究の方法論を学ぶ。			
10			(高田 政夫) 発達障害（肢体不自由を含む）に対するリハビリテーションの効果やその評価方法に関する研究を中心に研究の方法論を学ぶ。			
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
成績評価の方法・基準（100％）						
発表	抄録					
50	50					
中間研究発表会にて、抄録を提出し、発表すること。						
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。						
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
研究構想内容に対する中間研究発表において、内容を公開し、指導を受ける。						
教科書						
なし						
参考図書						
備考：履修者への要望						
研究指導担当教員の指示に従うこと。						
授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数	

リハビリテーション科学研究Ⅱ		リハビリテーション科学専攻		1	必修	5単位 (15時間)	75時間
担当教員名							
＊研究のテーマにより、以下の教員から担当教員が決まる 宮津 真寿美・鳥居 昭久・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・山下 英美・横山 剛・松村 仁実・高田 政夫							
授業概要							
各教員個別の指導により、研究課題（研究疑問、仮説など）、研究計画、研究方法、結果、考察を行い、その研究成果を発表会で口演し、論文を完成させる。							
学習到達目標							
基本的な研究過程を修得する。							
授業形態							
講義		クラス分け方式にて行う。					
授 業 計 画							
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容				
1	宮津 鳥居 加藤 真弓 加藤 真夕美 木村 臼井 山下 横山 松村 高田	基本的研究過程	(宮津 真寿美) 筋機能障害の改善を目的とした理学療法・作業療法の効果に関する研究を中心に、基本的な研究過程を修得する。研究で得られた結果等について討論し、論文を完成させる。				
2			(鳥居 昭久) スポーツ障害・障害者スポーツに関連する研究を実践し研究を実践し、口述発表、論文作成の過程を体験し、研究の実践を修得する。また、関係研究会、学会などに参加する。				
3			(加藤 真弓) 高齢者の健康増進・介護予防に関する研究、または、中枢神経系障害の（主に身体機能障害）の機能障害、活動制限に関連する研究を行い、基本的な研究過程を経験し、論文を完成させる。				
4			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害（特に認知機能障害）に伴って生じる活動制限に対するリハビリテーション効果の検討方法について、一連の研究過程の経験を通して学ぶ。				
5			(木村 菜穂子) 維持期高齢者への理学療法士の介入における効果の検討方法について、基礎的な研究方法や研究過程を経験し、論文を完成させる。				
6			(臼井 晴信) 運動生理学、内部疾患系障害患者に対するリハビリテーション評価、治療効果を検証するための研究を実施し、研究仮説に対する仮説検証の結果から討論を重ね論文を完成させる。				
7			(山下 英美) 高齢者の認知機能障害に関して、予防的観点を含んだ調査及び介入効果の検討方法について、一連の研究過程を経験し、論文を完成させる。				
8			(横山 剛) 精神障害領域の作業療法の介入計画を実施し、その効果に関してを研究論文として完成させる。				
9			(松村 仁実) 身体機能改善を目的とした運動刺激や物理的刺激の効果、またその評価方法に関する研究を行い、基本的な研究過程を修得する。研究で得られた結果等について議論し、論文を完成させる。				
10			(高田 政夫) 発達過程領域の障害児に対する介入計画を実施し、その効果に関して研究を行い、一連の研究過程を経験し論文を完成させる。				
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
成績評価の方法・基準（100％）							
報告	発表						
50	50						
研究発表会で発表（50％）し、研究論文（学位授与機構に提出する学修成果報告書と同等）が提出される（50％）こと。							
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間							
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。							
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法							
研究論文内容に対する発表において研究内容を公開し、指導を受ける。							
教科書							
なし							
参考図書							
備考：履修者への要望							
研究指導教員の指示に従うこと。							